

# とんでもない「カジノ法案」

会社役員 石村 誠次76 (石川県白山市)

政府はカジノの具体的な制度などを定める統合型リゾート（IR）実施法案の成立を目指そうとしている。政府・与党内では法制定を前提とした日本人客の入場制限論議が活発化しているが、カジノ開設などともないことだ。

国家の経済成長や活性化の手段は、原子力代替エネルギー開発や高齢化社会への基盤づくりなど国民が幸福感を享受できる分野にこそ求めるべきだ。知恵を絞らず、このような「賭博産業」に頼るとは、なんとも情けない。

強く懸念されるギャンブル依存症の対策を考える一方で、カジノを認める意向

は「解毒剤を用意して毒を飲ませる」ようなものだ。ギャンブルも覚醒剤同様、いったん深みにはまってしまうと、抜け出すのは容易

ではない。依存症が広がった場合、カジノを推進する政府や自治体はどう責任を取るのか。

物事の本質を考えず、安易な方法で解決を求めようとする最近の政治家の資質と善動には、大きな脱力感を抱いてしまう。